

10月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回11月のてがたんは11月13日(土)で、テーマは「鳥の色、自然の色」です。  
市民スタッフのみなさま、次回の下見は10月28日(日)午後です。

## 10月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→市民農園前→藤棚
- 観察日時と天気：2018年10月13日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：29名(大人19名、中学生2名、小学生以下8名)
- 市民スタッフ：5名(木村稔、染谷迪夫、石原直子、伊東茂子、弘實さと子)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

## 観察した生き物の記録(下見を含む)

「\*」は、下見だけで見られたもの。

### 【鳥類】

カモ科：カルガモ、オナガガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ゴイサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：バン/カモメ科：ユリカモメ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ(声)/モズ科：モズ/カラス科：カケス\*、ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ、ヤマガラ\*/ツバメ科：ツバメ、ショウドウツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ  
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

### 【両生爬虫類】

アオダイショウ?(脱皮殻)\*、カナヘビ、ニホンアマガエル

### 【昆虫】

チョウ目：モンキチョウ、モンシロチョウ、キタキチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、イチモンジセセリ、オオチャバネセセリ、ヒカゲチョウ、ツマグロヒョウモン、イチモンジチョウ/トンボ目：アキアカネ、ノシメトンボ、リスアカネ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ/ハチ目：オオスズメバチ?/カメムシ目：ツヤアオカメムシ、ヒメマルカメムシ、アオバハゴロモ/コウチュウ目：カミキリムシ類の幼虫の脱出跡(ヤナギ)/カマキリ目：オオカマキリ/バッタ目：エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、モリオカメコオロギ、アオマツムシ、カネタタキ、クサヒバリ、キンヒバリ、シバズ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、ヒナバッタ、オンブバッタ、コバネイナゴ/ハエ目：ユスリカの仲間

### 【多足類・クモ】

オカダンゴムシ、ワラジムシ、ゲジ、イナズマハエトリ、ハナグモ、ジョロウグモ、ドヨウオニグモ

### 【花】

草の花 キク科：アキノノゲシ、ノゲシ、カントウヨメナ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、キクイモ(オオキクイモ?)/タデ科：ミゾソバ、イヌタデ、イシミカワ、ヤノネグサ/シソ科：ヒメジソ/クマツヅラ科：クマツヅラ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/ツユクサ科：イボクサ、ツユクサ/アカバナ科：ヒレタゴボウ、コマツヨイグサ/イネ科：ススキ、オギ/ゴマノハグサ科：アメリカアゼナ

# 観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「ヒヨドリの渡り」でした。手賀沼遊歩道沿いの2か所で定点観察を行い、手賀沼を超えて南へ渡っていくヒヨドリの群れを観察できました。



今月の案内人 木村 稔さん



染谷迪夫さん



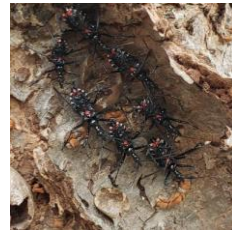
①遊歩道上空を飛んでいたショウドウツバメ



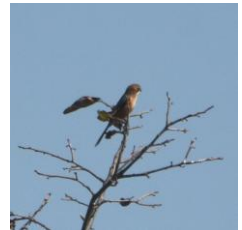
②コサギが落とした枯れたカナムグラの茎



③サクラの幹に産まれたハラビロカマキリの卵



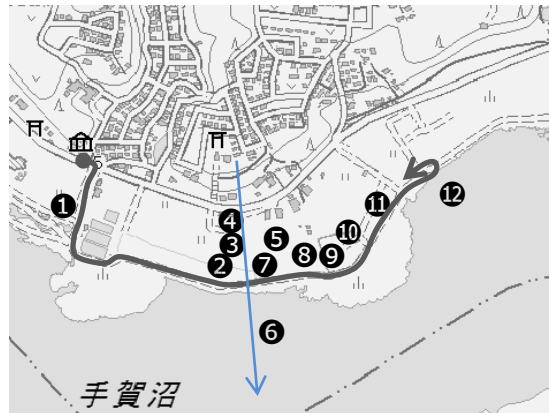
④集団越冬を始めていたヨコヅナサシガメの幼虫



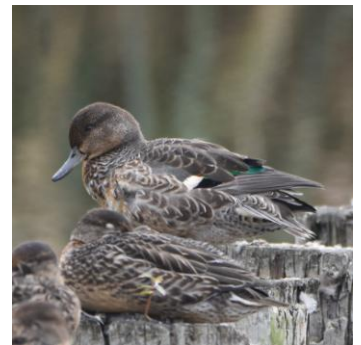
⑤縄張りを宣言していたモズの雄



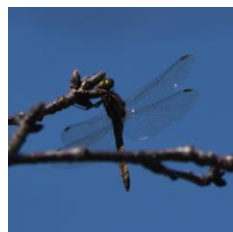
⑥手賀沼を超えて渡っていったヒヨドリの群れ。右の地図の青い矢印のコースを10:43に21羽の群れが渡って対岸の林に飛び込むのを観察した。



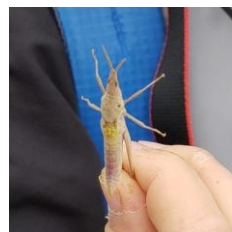
歩いたルートと観察した生き物



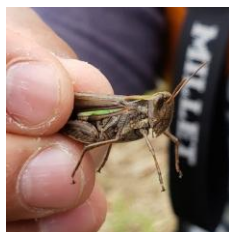
⑫市民農園前の人工島の杭に止まっていたコガモ。後が雄で手前が雌。渡来直後は雄と雌の見分けが難しい。



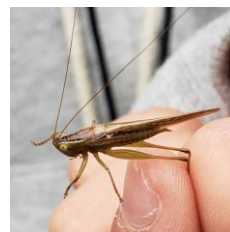
⑦サクラに止まっていたアキアカネの雌



⑧遊歩道沿いで見つけたオンパッタの褐色型



⑨草地で見つけたヒナバッタ



⑩草地で見つけたホシササキリ



⑪水路に咲いていたミゾソバの花

## 今月の鳥 ヒヨドリ スズメ目ヒヨドリ科

多くの小鳥類は夜間に渡りをします。方角の目印となる星座を使うことができること、天敵となるタカやハヤブサが行動していないこと、昼間よりも天気が安定していることがその理由だと言われています。そのため、普通種の冬鳥であるアオジやジョウビタキでも、私たちが渡りの瞬間を目にすることはあまりありません。しかし、その例外の一つがヒヨドリです。ヒヨドリは大きな群れを作って少しずつ移動することで、昼間に渡りを行います。ヒヨドリの移動は主に晴れた日の午前中に見られ、普段より少し控え目な声で鳴き交わしながら、短い距離の移動を繰り返して移動していきます。11月いっぱいには観察できるので、鳴き声に注意して探してみましょう。鳥が渡っていくその瞬間に立ち会えますよ。



波状飛行で渡るヒヨドリの群れ。バタバタと羽ばたくときに高く上がり、翼をたたんでスーッと滑空する。